

北津 青介（きたづ・せいすけ）

1、プロフィール

劇作家。劇団「雪の会」代表。津軽弁による作品「お前は輝ぐ虹だべが」はツガルミュージカルスとして注目された。青森放送社員としてラジオの連作番組も企画した。

<生没>

1933(昭和8)年4月1日 ~ 1973(昭和48)年10月10日

<代表作>

遺稿集『秋に蒔いだ種コ』『茜雲の下の客人』『死神の心得』『くるみに頬寄せて』『幽霊というものは』

<青森との関わり>

青森市に生まれる。本名工藤迪、新製の青森高校第2回生。在学中より俳句ほか文芸作品を書く。「櫻」を主宰。

2、作家解説

本名は工藤迪(すすむ)。青森市大字大野字長島 67 番地に父哲郎、母ヒサの長男、独りっ子として生まれた。昭和 21 年青森県立青森中学校に入学。学制改革で 24 年、青森高等学校に入学。第2回生として卒業したのが 27 年3月であった。2年後輩に寺山修司がおり、寺山は「牧羊神」を、迪は「櫻」を主宰していた。昭和 27 年春、早稲田大学文学部に入学、俳句研究会に入る。昭和 28 年、市ヶ谷の三木トリロー冗談音楽事務所に出入りし、永六輔と知り合う。この頃から「北津青介」のペンネームを使い始める。この間に句集「脈翅子(やご)」を出し、早大合同句集「稲城」、青森県句集第 14 集(昭 27)にも出句する。帰青してラジオ青森(現青森放送)に入社。東京時代の昭和 30 年劇団「雪の会」が誕生し、文芸部門に永六輔、海郷三吉、北津、篠崎淳之介ら、音楽部門には川崎祥悦、村木由夫ら、美術部門には川内直哉、高木保など多くの仲間が集まった。第1回の旗揚

げ公演は昭和 31 年 1 月青森県立図書館ホールで行われた。演目は「爺ちゃ婆ちやお晩です」。

同じ年の 7 月「四つの夢の物語」「夕焼けの唄・七幕」。その後昭和 36 年まで 15 回の公演を続け、この年米谷ケイ子と結婚、翌 37 年長女千夏が誕生する。昭和 38 年第 16 回公演「お前は輝く虹だべが」は津軽弁によるツガルミュージカルスとして全国的に注目を集めた。昭和 41 年第 18 回公演「雲吉にボロ菊の花咲けば・五幕」昭和 42 年第 20 回公演「おらだちに海のある限り」は篠崎淳之介との共作。昭和 43 年 9 月、第 21 回公演のツガルロマンテーク「陽炎の唄は遥かなれども」を企画・制作し、青森市油川出身のレビュー作家菊谷栄における人間と運命を描き、榎本健一を特別出演させた。またラジオの世界でも青森放送社員として退職まで約 800 本の番組を制作、39 年の「幻の鳥善知鳥への詩劇とりふぶき」は民放祭で初めて金賞をもたらした作品である。昭和 47 年 ATプランの「キャロット」編集長として地方 PR 誌に新機軸を出した。昭和 48 年 10 月 10 日急逝。享年 40 歳。

3、資料紹介

○『秋に蒔いだ種コ』

図書

1974(昭和 49)年 10 月 10 日

195mm × 132mm

父であり俳人でもあった工藤哲郎(俳号汀翠)が供養のために出版した。俳句・詩・戯曲の三部門に分かれている。書名は収載された戯曲の題名からとられた。長部日出雄、寺山修司、篠崎淳之介、永六輔ほかの序文がある。

○「秋に蒔いだ種コ」プログラム

印刷資料(プログラム)

1972(昭和 47)年 3 月 21 日

250mm × 362mm

ツガルミュージカルス以来 3 年ぶりに第 1 回雪の小劇場として作者が演出。主題歌の作曲は天井棧敷のスタッフで「時には母のない子のように」などのユニーク

な作風で知られる田中未知さんによるものであった。青森教育会館で上演された。

○資料冊「北のすていじ」雪の会40年史

図書

1997(平成7)年3月31日

210mm×145mm

劇団雪の会によって編集、発行された。カバー裏面に三木鶏郎の祝文、装幀は高木保。雪の会創立会員で劇作家、演出家の篠崎淳之介が「資料冊に寄せて」と題して序文を書いている。公演の記録ほか時々の劇評などが掲載されている。